

平成25年12月16開会の占冠村議会定例会で、9月の定例会以降の行政の動きについて報告しましたので概要をお知らせします。

★占冠村地域公共交通会議

占冠村地域公共交通会議は、道路交通法の規定に基づき設置されているもので、本職の他に富良野沿線の一般乗合旅客自動車運送事業者、国土交通省北海道運輸局旭川運輸支局、北海道上川総合振興局、村営バス利用者等7名で組織しています。

9月30日に平成25年度第1回の会議を開催し、予約型乗合タクシー（むらびと交通）を2月1日から本格運行に移行するため協議をいただきました。協議が整い、道路運送法第4条の許可申請を提出し11月28日に許可書が交付されました。

このことにより、平成26年2月1日から予約型乗合タクシー（むらびと交通）としてスタートいたします。

★地域資源フォーラム「占冠活動報告ひろば」

10月20日に、本村と地域

総合交流協定を締結している酪農学園大学並びに三者連携協力協定を締結している北海道大学大学院環境科学院と株式会社星野リゾートトマムとの間の活動と実践事例を多くの村民の皆さまに理解していただくために地域資源フォーラム「占冠活動報告ひろば」を開催いたしました。

星野リゾートトマムと北海道大学大学院環境科学院からは「雲海テラス」、村内の小中学校で行った「雪の学校」、「川の学校」の開催状況、森のかりうどと酪農学園大学からは「エゾシカの管理と食料としての利用価値」について、株式会社スポーツピアと北海道大学からは「森林資源の活用に向けた薪ボイラの取り組みと可能性」がそれぞれ発表され、参加者と意見交換を行いました。

★ふらび・香港台湾観光プロモーション

富良野美瑛広域観光推進協議会の台湾・香港トッ

プセールス2013が10月22日から10月26日の5日間の日程で行われました。

富良野市長を団長に、6市町村長がそれぞれ役割を分担し航空会社1件、旅行代理店等6件、セミナー1件、交流会2件で観光客誘致活動を行いました。

今回は、民間事業者も参加しており、それぞれの立場で対応していくこととし、行政としては飛行機の発着枠拡大について関係機関へ要望することになりました。

最近台湾からの旅行者が増えていることから、11月29日に6市町村の民間団体で富良野地域日台親善協会が設立され、今後は継続的に交流が進むものと期待されています。

★木質バイオマス推進コンソーシアム

木質バイオマスを普及するにあたり、木質バイオマスコンソーシアム会議を開催しました。

コンソーシアムは企業

などが共同するという意味があり、構成員は本職のほか、村内の関係する事業者、エネルギーの専門家等4事業体からなります。

今回の会議では、湯の沢温泉に導入する一村一エネ事業について内容を確認した後、本村の木質バイオマス事業の展望について議論を行いました。

また、12月20日には関係者を招き、湯の沢温泉において薪ボイラーの火入れ式を行い新エネルギーの取り組みをスタートさせます。

村といたしましても、総合計画の見直しで答申されているように、エネルギーの地産地消に向け取り進めてまいります。

★第2回全国村長サミット in 木島平

第2回全国村長サミット in 木島平が11月15日、16日に開催され参加しました。

木島平村は長野県の北部に位置し面積が99km²、人口が約5,000人、高齢

化率32%で、主な産業は有機栽培の稲作、野菜栽培を中心にキノコ栽培の農業とスキー場、温泉、伝統工芸、名所旧跡を巡る観光となっております。スキー場およびホテルならびに温泉は、第三セクターで経営しています。

今サミットのキーワードになっているのが「農村文明の創世をめざして」であり、百年前に警鐘された「真の文明は山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし」といった教えであります。

また、村民の学習意欲が旺盛でサミットに合わせた長野県むらびとフォーラム、農村文明塾、公民館でのワークショップ、教養セミナーなどが開催されています。

農村文明塾には木島平村に關係のある著名な有識者の顧問団があり、強力な支援体制が作られています。木島平村という人を引きつける自然と社会・生活環境、村長をはじめと村民一丸となつたむら

づくりへの熱意と意欲が人を動かし、農村文明塾のような一つの形を作ったとお聞きしました。村の成り立ち、文化、歴史などの違いがあります、農村文明の考えは、今後のむらづくりの参考になるものです。

★旭川十勝道路整備促進期成会要望

地域高規格道路の旭川十勝道は北海道縦貫自動車道と北海道横断自動車道を結ぶ高速ネットワーク機能を有しており、新千歳空港、旭川空港、帯広空港を結ぶ道路となります。上川地方と他の地方との交流促進や地域経済の活性化、十勝岳の災害対応のため必要な路線であり、2市6町1村で期成会を作り整備促進を関係機関に要望しています。

本年度におきましても秋期要望として11月15日に北海道上川総合振興局、北海道開発局旭川開発建設部、北海道開発局、北海道、北海道議会に、11月20

日には国土交通省に要望を行っております。

本村においても医療、救急、高校通学といった生活路線であり、観光振興において大変重要な路線となります。こうしたことから占冠村と富良野市間を計画路線から調査区間へ昇格するよう強く要望しております。

★エゾシカ対策

本村のエゾシカ対策は、現在エゾシカ対策基本構想により取り進めていきます。

今般エゾシカ捕獲に関し、林野庁の事業を行う株式会社野生動物保護管理事務所が主体となり、地方独立行政法人北海道立総合研究機構、酪農学園大学、占冠村の4団体で連携協定を締結し、モバイルカリングを実施することになりました。

モバイルカリングとは、餌付けをして、車で移動しながら組織的・計画的な個体数調整を行う捕獲手法のことをいいます。

本村においては農業被害額、ライトセンサス調査の結果から推測すると総体的な生息数は減っており、日没後に農地に出没することから、捕獲頭数は減少傾向にあり、農業被害も依然として減ってはいません。

今年度は1月から2月にかけて、上川南部森林管理署の協力を得て村内国有林内の林道2カ所でモバイルカリングを行います。これらのデータは本村の猟区設定に向けての貴重な資料となりうるものと認識しています。

この手法で開発された捕獲技術は将来エゾシカの捕獲手法として各市町村に技術移転されることになっており、その成果が期待されます。



再任のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

輝かしい新年をご健勝にて迎えられましたことを心からお慶びを申し上げます。

私こと、昨年の11月26日をもちまして任期満了を迎えましたが、再度、副村長に就任することになりました。

あらためてその職責の重大さを痛感するとともに決意を新たにしております。

道内の景気は、穏やかに持ち直していると言われておりますが、4月からの消費税増税をひかえ、予断を許さない状況にあります。このような中、昨年の3月に占冠村総合計画が見直され、「福祉・森林・エネルギー」の三大重点目標を掲げた村づくりが進められております。

もとより微力ではありますが、これまでの行政経験を生かしながら、中村村政の一端を担うべく全力を傾注してまいり所存であります。

村民の皆さまには、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、再任のごあいさつといたします。



占冠村副村長 堤 敏満